

# みんなの童話

## いもほり



ブルルーン、ブルルーン。  
夕ごはんを食べていると、電話

がなりました。  
「あみちゃん、明日いもほりにこ  
ない?」

おばあちゃんからでした。

「ねえ、お母さん。行ってもし  
ない?」

「ああ、いいよ」

と、オッケーをもらいました。

次の日の朝、わたしは、おばあ  
ちゃんの家に行きました。

いとこのまりちゃんも弟のけん  
ちゃんときていました。

おばあちゃんは、わたしの顔を  
見ると

「さあ、でかけようかね」

と、わたしたちを車にのせました。

「出発進行」

と、けんちゃんが、いきました。

畑につくと、おばあちゃんは、  
車から道具を取り出し、いものつ  
るを切りだしました。

けんちゃんは、つるから飛び出  
すバツタを、おいかけます。わた  
しとまりちゃんは、いものつるを  
ひっぱります。つるを取ると地面  
がでてきます。地面はでこぼこし  
ていてさつまいもができているの  
かと、心配なほどです。

おばあちゃんは、

「今年のいもはあまみの多いも  
になっっているよ。さあ、つるの切  
れたところから、ほつてごらん」

そういって、スコップや草取り  
用の小さなくわを出してくれまし  
た。わたしとまりちゃんは、地面  
のもりあがった所をねらってほつ  
ていきました。でも、なかなかで  
てきません。

さつまいもは、土の中に根を  
はってそこにいもができるよ、お  
ばあちゃんはいいます。

「どれ、少しおこしてあげよう」  
くわで、ほつてくれました。

「わーっ。おいもがでてきたよ」  
まりちゃんが、大きな声をだすと、

けんちゃんがとんできて、  
「おねえちゃん。やったー」  
と、歓声をあげました。

わたしは、いっしょうけんめい  
スコップでほりました。いもの頭  
が少しでてきました。でも、まり  
ちゃんのように全部でてこないの  
です。まりちゃんは、またほった  
ようです。

わたしは、小さなくわにかえて  
ほりました。大きいものようにで  
すが、なかなかでてきません。

「大きなおいも、でてこーい」

けんちゃんが、手伝ってくれま  
した。まりちゃんも手伝ってくれ  
ました。三人でほってやっとでて  
きました。その大きなことといっ  
たら、まりちゃんのほった三こか  
四こ分もありました。

おばあちゃんが、

「これは、大きいこと。文化まつ  
りに、だしたら優勝するよ」  
と、笑いました。

今まで遊んでいたけんちゃんも  
遊びをやめてほりはじめました。

わたしもまけまいと、ほりまし  
た。まりちゃんもほっています。

おばあちゃんが、畑のすみで火  
を、おこしました。それからいも  
を洗って、ぎんがみにつつみ火の  
中にいれていきました。

「おばあちゃん、やきいもつくっ

ているの?」

「ああ、そうだよ。やけるまでも  
う少しがんばっておくれ」

それを聞いてわたしとまりちゃ  
んは、うれしくなって、せつせと  
ほりました。

しばらくすると、おばあちゃん  
がよびました。

「さあさ、みんなおしまいにしよ  
うよ。手をあらっておいで」

けんちゃんが、一番に手をあら  
いに行きました。わたしもまり  
ちゃんも、おしまいにしました。

おばあちゃんが、くわをしいて、  
ばしょをつくりました。

「さあ、やきいもできたよ。みん  
なでたべようよ」

みんな丸く輪になってすわり、  
やきいもを真ん中におきました。

ぎんがみが、黒くこげていいに  
おいがします。おばあちゃんが、  
ぎんがみをとってくれました。

ふーふーいいながら、やきいも  
をたべます。そのあまじこと、やっ  
ぱり、おばあちゃんのいったとお  
りでした。地面ですこいなあ。こ  
んなに甘いおいもを作ってくれる  
んだ……。わたしは、地面には  
ふしぎな力があるんだなあ。と思  
いました。

しろやま会員 かたやまのぶこ